

るので、その製法は目下特許出願中である。

一般廃棄物の熔融炉施設は2007年2月時点で全国に234カ所あり、建設中、計画中の分も含めると300カ所程度を数えることができる。ごみの熔融を選択するのは最終処分場が逼迫しているためで、最終ごみの減容化を図りたいのがその理由である。しかし、その熔融スラグのほとんどが水で急冷する水破スラグで、非常にもろいため、埋め戻し材など一部の用途に使われる以外は利用できず、やむを得ず最終処分場で処分している。また、熔融炉施設から処分場までの運搬費用にも税金を投入しているのが実情だ。

熔融スラグはすべて色は黒で、普通に着色したのでは光の屈折率との関係でベースの黒が浮かび上がり、着色した色が表面に出ない。熔融スラグに着色するという発想自体が今までなかったことだが、それを可能にしたのは同社の花田社長が塗料メーカーの研究開発部に所属していた技術者だったためで、自身の技術力によりそれを実現した。そして04年4月に同社を設立した。

カラスラグは現在、もみじ色、まさ土色、しば色の3色を用意、いずれも自然にとけ込み、人にやすらぎを与える色として選定した。カラスラグだけではもろいため、碇子、ケイ石などを混ぜ、それらを樹脂によってコーティングして製品化する。製品名は「グランドソイル」で、透水型樹脂舗装材として販売してい

る。18kg/袋の骨材と1kg缶入りの樹脂材を1セットとして現場で施工する。1セットの施工面積は1.5㎡で、その価格1万7550円は一般のカラ樹脂舗装材より2～3割安い。

家庭ごみからできるこの「グランドソイル」を目に見える形で普及させることにより、循環型社会をわかりやすく理解できるのではないかと同社は考えている。このため、地方公共団体が管理する遊歩道、公共建造物の周辺舗装、高速道路の中央分離帯、料金所付近の擬せ緑化などの公共工事での採用を希望している。現在、本命とする地方公共団体や国交省などでは試験施工を含み実績を積み重ねている段階。一方、先行している民間工事では、ガーデニング用の樹脂舗装材や住宅の周辺、墓地の防草目的の樹脂舗装材などに使用されており、すでに約100件の実績を持つ。

全国300カ所以上る熔融炉施設を対象に地産地消型で事業を展開するに当たっては、地場の土木・建築業者とのタイア

ップが不可欠と考えており、それらとの代理店契約を促進することを当面の課題としている。現在、京都、滋賀、奈良、岡山で代理店を持っている。さらに、着色加工の面では地産地消製品である熔融スラグを原料とした製造のフランチャイズ事業者を今後、全国レベルで募っていきたいとしている。(町谷)

花田技研、ごみ熔融スラグを景観カラー舗装材にリサイクル、特許出願中

花田技研工業㈱(〒707-0045 岡山県美作市巨勢2003、Tel.0868-72-7077、花田義和社長)は、一般家庭から出されるごみを直接熔融、あるいは焼却後の焼却灰の熔融により得られる熔融スラグに着色することで景観カラー舗装材にリサイクルすることに成功し、今後、代理店を通して全国販売していく方針。熔融スラグに着色するという発想は同社独自のも



民家での施工例